

梁川高校には生徒が学校生活を送る上での決まりがある。これを一般的には校則と呼んでいる。服装、頭髪などに関することが主である。中には、このような決まりごとを窮屈に感じる生徒もいることだろう。今号では「形」について考えてみたい。

皆さんの中には、「外側よりも中身が大事」という考えをもっていたり、このような言葉を聞いたり、人から言われたりした方はいないだろうか。このことが間違っているとは思わない。中身が大事なのはもちろんである。ここでいう形とは、外側のことである。

「まずは形から」という言葉もある。外側がきちんとしてくると、いつの間にか中身もきちんとしてくることはないだろうか。中身をきちんとするためにも形をきちんとしていくことが大事なのである。

こんな話がある。サッカーU-17の各国の代表選手が、ヨーロッパで行われた大会に参加したときのことである。その大会には、スペインやブラジル、アルゼンチンなど世界でも強豪と言われる国々はもちろん、日本代表も参加していた。日本代表メンバーの中には世界でも有名なクラブチームに所属して活躍している選手もいた。

ある朝のことである。朝食をとるために各国の選手たちがレストランに集まってきた。代表選手たちは、皆、髪の毛をきれいに整え、おそろいのブレザーとズボンにネクタイをきっちりしめ、きれいに磨かれた革靴を履いて現れた。そして、あいさつは英語だった。

すると、ある国の代表選手たちが現れた。今起きたばかりといわんばかりに髪はぼさぼさ、ジャージを着て、おまけにファスナーは開けっ放し、サンダル履きに手をポケットに突っ込んだまま、あいさつは英語ではなく「チューッス」。皆さんは、この選手たちがどこの国だと思うだろうか。きっと日本ではないとお考えではなからうか。ところが、この選手たちはわが日本代表だったのである。

その様子を見ていた日本代表監督は、目を覆い、大きくため息をついた。この監督は何を思ったのでだろう。日本の代表チームなのであるからそんなに弱いはずはない。しかし、案の定、日本代表は全敗だった。試合をする前から負けていた。最初から形で負けていた。

人は見た目でやる気が上がることがある。ユニフォームや制服をそろえる理由の一つがそうであろう。ときには見た目や形を振り返ってみることも大切なことである。

高校を卒業し、社会に出た若者に調査した結果がある。「高校のときにもっと指導してほしかったことはどんなことですか」とすると、回答の上位に「もっと服装や頭髪、あいさつや礼儀のことを指導してほしかった」がくる。高校の先生方からすれば、「だから言ったではないか。あれほど指導してきたのに」という思いになるかもしれない。若者からすれば、社会に出てようやくその重要性がわかったということなのだろう。

ここで考えなくてはいけないのは、教員の指導の仕方である。服装や頭髪に関して、「決まりだから」では生徒は納得しない。「面接があるから」でも納得はしていないだろう。このようなやり方では指導とは言えない。「服装や頭髪をこうするのは～だから」と端的にわかりやすく生徒に説明できなければならない。

あいさつや礼儀に関しては、生徒もその意義や重要性を理解しているものと思う。だが、服装や頭髪に関してはどうだろうか。疑問に思うこともあるだろう。現在の梁川高校の生徒は、決まりやルールを守ろうとする姿勢がみられる。これからは、さらにレベルを上げて、社会に出る前に自分から「形」を整えるようになってほしい。